



東地中海地域ニュース

パレスチナ：アッバース PA 大統領のスピーチ (1月26日付「アル・クドゥス」紙)

1月25日、ダボスで開催された「世界経済フォーラム年次総会」にて、アッバース PA 大統領が行った演説の要旨(1月25日)。

1. 中東和平プロセス

- (1) 聖地における和平の実現に向けて、あらゆる善意のエネルギーを結集する時が来た。真剣な交渉を、明日ではなく、今日始めようではないか。
- (2) 蔓延する緊張と懸念の原因を排除することにより、より良い生活への希望を人々に与え、和平を支持する穏健派を強化し、過激派に対峙することが出来る。中東こそが、かかる緊張の除去を最も必要としている地域であり、パレスチナ・イスラエル紛争は、解決が求められている諸紛争の筆頭に位置していることは、衆目の一致するところである。
- (3) 1967年の停戦ラインに基づくパレスチナ独立国家樹立に向けた政治プロセスを再開するために相応しい雰囲気醸成されている。
- (4) 「土地と平和の交換原則」をベースとする法的根拠を合意することにより、我々はトンネルの出口の光を見出すことが出来る。これまでの我々の経験から言っても、部分的合意や一方的措置は、出口の見えないトンネルに入り込むことを意味する。我々は、国際的な参加を得て最終地位問題を扱うバック・チャネルの設置を提案した。というのも、当該紛争を公平、包括的、且つ合意の下で終結させる為には、最終地位問題に対する創造的な解決策が必要とされているからである。

2. パレスチナ内政問題

新内閣については、政治勢力によるものか、テクノクラートによるものかを問わず、過去に署名されたあらゆる合意事項にコミットすることを、その政治プログラムに包含していなくてはならない。かかる内閣を組閣出来ないのであれば、大統領及び立法評議会(PLC)の早期選挙を実施し、指導者及び政治プログラムについて人民の決定に委ねる。

3. パレスチナ経済状況

- (1) 失業と貧困はかつてない状況にまで達し、ガザでは人々の79%が貧困ライン以下の生活をしており、そのうちの51%は激しい貧困に置かれている。西岸でもほぼ同様の割合である。
- (2) その理由は、イスラエルが国境を完全に支配していること、移動の自由に制約が課せられていること、インフラの大規模な破壊、パレスチナ領土の分断、経済活動に多くの制約が課せられていることによる税収の減少、及びアラブ人、外国人投資家が PA 領域内に入り居住する便宜を図るための権利が我々にはなく、1997年以来イスラエルがかかかる便宜を停止していることにある。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799